

# 大槌の子



大槌町立大槌学園 園報No.18 令和6年2月2日発行

## 「大槌の教育」児童生徒実践発表会



1月25日(木)、「大槌の教育」児童生徒実践発表会がおしゃっちで開催されました。この会は、大槌町の教育活動の一層の充実を図るために毎年開催されています。

今年度の児童生徒実践発表会の部では、大槌学園を代表して5年生が学園祭で取り組んだ「つながれた命・大切な命～大槌とイトヨ～」を発表しました。子ども達の心のこもった呼びかけと澄んだ歌声で、大槌町の自然が生んだ「イトヨ」の素晴らしさと、命を繋いでいく人々の思いを参観された皆様に伝えることができました。吉里吉里学園小学部からは6年生が「吉里吉里の宝・鮭～鮭と関わる人々の思い～」を、大槌高校からは2年生の飛田さんが「TKG(対話で変える学校作り)」を発表しました。どの発表も大変素晴らしく児童生徒同士も参観された方々も互いに学び合う機会となりました。この児童生徒の深い学びを支えてくださっているのは、他でもない大槌町の地域人材の皆様です。改めて感謝申し上げます。

「講演の部」では大阪市立大空小学校初代校長の木村泰子先生のお話を拝聴しました。事前に上映された「みんなの学校」と題した大空小学校の実践を観ておりましたが、講演会も映像の中の木村先生と全く変わらないエネルギー溢る姿でお話になり、ただただ引き込まれるばかりでした。木村先生の子供達に対する深い愛情を感じるとともに、教育の目的とは何かを改めて考える貴重な機会となりました。

今回の「大槌の教育」児童生徒実践発表会は、地域の方々にも多数ご参加いただき、広く大槌の教育を伝える場となりました。



# ジビエカレー給食



1月23日から1月末まで学校給食週間として、大槌町や岩手県の産物や各地の郷土料理を献立に取り入れた給食が提供されました。1月24日は、大槌町の Momiji さんで加工された鹿肉を使用したカレー給食でした。この日は、平野町長、松橋教育長、株式会社 Momiji から兼澤さんと俵さんが来校し、3年2組の子ども達と一緒にジビエカレーを味わいました。柔らかくて美味しい鹿肉で子ども達にも食べやすく、「美味しい美味しい」と言いながらおかわりしている子ども達がたくさんいました。今や大槌町が誇る特産品となっているジビエを給食で味わえたことに感謝いたします。Momiji さん、ありがとうございました。

## ～歩いて大槌学園へ行ってみよう～

1月26日(金)幼保小接続事業の一環として、来年度大槌学園へ入学する各園の年長さん達と学園の1年生が交流しました。この日学園を訪れたのは66人の年長さん達。なんとおしゃっちゃんや旧きらり商店街跡地から歩いて来てくれました。

学園へ到着し最初にやった活動は「けいどろ」です。次の活動は年長さんから1年生へ質問タイムです。中には「どうやったら友達がつくれますか?」という難しい質問もありましたが、1年生は「友だちになろう。」「一緒に遊ぼう。」と自分から声をかけるいいと答えていました。

最後は、1年生が年長さんを教室へ案内しました。机の中を見せて道具の説明をしてあげたり、掲示物を紹介したりと思い思いに活動していました。

年長さんにとっては入学への期待を、1年生にとっては進級しお兄さんお姉さんになる意欲をそれぞれ膨らませた交流会となりました。



## 能登地方地震災害支援募金

## ファザーリング・ジャパン様より寄贈

1月22日から3日間、児童生徒会が中心となり『能登地方地震災害支援募金』に取り組みました。

集まった募金額は **116,203円** です。

集まった募金は、早速珠洲市能登半島地震災害義援金として被災地へ送りました。

ご協力ありがとうございました。被災地の一刻も早い復興をお祈りいたします。



9月の絵本ライブの様子

9月に「絵本ライブ・絵本読み聞かせ」を行ってくださった NPO 法人『ファザーリング・ジャパン』様より、図書カード2万円を9枚(18万円分)寄贈していただきました。

ファザーリング・ジャパン様は、東日本大震災直後から「パパエイド基金」を発足し、初期の頃は支援物資の仕分けや炊出し作業など、後に絵本棚づくりや子ども向けの絵本ライブ開催などを行い、13年間東北被災地に寄り添っていただきました。基金での活動は終了となり、委託された基金の残金を図書カードとして寄贈していただきました。

子ども達の図書の充実役に役立てて参ります。ありがとうございました。